

## 特集 2 / 地域ストック持続可能性マネジメント (OPoSSuM) プロジェクト活動報告 社会関係資本のマネジメント手法の開発について

芝浦工業大学工学部教授

栗島 英明

芝浦工業大学 SIT 総合研究所研究員

中村 昭史

### 社会関係資本のマネジメントの課題

JST-RISTEX プロジェクト「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体の持続可能性の確保 (OPoSSuM: Open Project on Stock Sustainability Management)」では、人的資本、人工資本、自然資本、社会関係資本の4つのストックの将来推計とそれを踏まえたストックマネジメントの手法を開発している。しかしながら、筆者らが取り組む社会関係資本のマネジメントには、多くの課題がある。

第一に、社会関係資本の定義の問題である。日本では、Putnam (2001) の「人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることができる『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会的仕組みの特徴」という共有財としての社会関係資本の定義が多く知られているが、Lin (2001) は「特定目的の行為にアクセスし、活用する社会的ネットワークに埋め込まれた資源」と、私的財として社会関係資本を定義している。このように社会関係資本の定義や期待される効用は様々であり、そのような定義が定まらない状況では何を対象にマネジメントを行えばよいか不明確となる。そこで、本研究プロジェクトにおいてマネジメントの対象となる社会関係資本の定義を行う必要がある。

第二に、社会関係資本の測定の問題である。第一の問題に起因し、社会関係資本は様々な指標で測定されてきた。また、その測定のスケールも、国、州、都道府県、市町村、集落、個人など様々であった。こうしたばらつきを統合する総合的な視点を提供できるほどの研究蓄積があるとは言い難いが、重要なこと

は、定義した社会関係資本を測定するのに適切な指標・手法や空間スケールを設定することである。

第三に、社会関係資本のマネジメント方法の問題である。本研究プロジェクトの「未来シミュレータ」は、基本的に「このままの傾向が続いた場合（BAU: Business As Usual）」による将来推計であるが、人的資本や人工資本、自然資本といった他の資本ストックとは異なり、社会関係資本はそうしたフォアキャストリングでの将来予測に馴染まない。そのため、将来をシミュレートする別の方法が必要である。

以上を踏まえ、本報告では、研究グループで検討した社会関係資本のマネジメント方法を示したうえで、その試行結果を報告する。

### 社会関係資本のマネジメント手法

まず、第一の課題である本研究プロジェクトにおける社会関係資本の定義を、「社会における人々の持つ人間関係（ネットワーク）と、そこから得られる直接的・波及的な効用」とした。もちろん、Portes（1998）が指摘するように社会関係資本（特に結合型ソーシャルキャピタル）には負の側面も存在する。ただし、それは他のストックにも同様にあつて、社会関係資本のみが負の側面を持つわけではない（例えば、老朽化した人工資本は負のストックともいえる）。本研究プロジェクトでは、健全なストックの継承というストックのプラス面を検討しているため、今回はまず効用の部分を考えた。

上記の定義を踏まえ、第二の課題に関わる社会関係資本の測定手法として、Van del Gaag and Snijders（2005）が開発したリソースジェネレータ法を採用することとした。同手法は、30程度の他者に協力を依頼するような具体的な項目（リソース）のチェックリスト（以下、リソースリスト）を用意し、その協力を得られる知人の有無や関係性について質問を行い、回答者がアクセスできる社会関係資本の種類を測定するものである。先に定義したネットワークを介した効用を測定するのに妥当な手法といえる。また、測定を本研究プロジェクトが地方自治体単位で行うことから、より地域特性を反映させるために、従来

研究のリソースジェネレータ手法を改良した。栗島ほか (2015) では、リソースリストを研究者が専門的な知見をもとに作成してきたが、本研究プロジェクトでは、これを多様な世代の住民へのグループインタビュー (以下、つながり座談会) を元に作成することとした。後述の座談会の説明においても述べるが、将来に向けたマネジメントを行うために座談会参加者には本研究プロジェクトのターゲットである 2040 年を意識してもらうことにした。

次いで座談会の結果を元に作成したリソースリストを用いてリソースジェネレータ法による住民アンケート調査を行い、当該地域における社会関係資本の現状を測定し、その傾向を分析する。現状における社会関係資本の課題を、リソースの種類や個人属性、居住地区ごとに把握し、マネジメントに活かす。

最後に、リソースジェネレータ調査によって明らかとなった社会関係資本の理想の状態と現状とのギャップや、当該自治体における社会関係資本の脆弱な部分を補完するために、将来に向けて社会関係資本を生みだす社会的ネットワーク (つながり) の活性化方策をワークショップ形式で検討する。ワークショップは、本研究プロジェクトの特徴の一つである中高生を対象とした「未来ワークショップ」と、地域の様々なステークホルダーによる会議 (以下、ステークホルダー会議) の 2 回である。前者の未来ワークショップでは様々なテーマを取り扱うため、社会関係資本はそのうちのひとつという位置づけである。後者のステークホルダー会議では、社会関係資本を中心に議論を行う。

以上のプロセスを、本研究プロジェクトでは、多世代・市民参加型の社会関係資本マネジメント手法と呼ぶこととする。以下では、この手法を実際に試行した結果について報告する。

### つながり座談会の実施と結果

つながり座談会の主たる目的は、社会関係資本を測定するリソースジェネレータ調査のリソースリストを作成することであり、八千代市 (2015 年 8 月 23 日)、市原市 (2016 年 2 月 20 日)、館山市 (2016 年 8 月 27 日) で実施した (写真 1)。座談会の時間は、八千代市は 2 時間、市原市と館山市は 2 時間 30 分

で実施した。各自治体の地域特性を反映したリソースを抽出するために、座談会参加者として当該自治体に在住もしくは出身の住民を公募した。また、創発的な効果を期待できる1グループ5～6人のフォーカスグループインタビュー形式を採用し、特定の世代・年齢に偏らないようにグルーピングを行った。

まず、参加者には、「これまでの人生で、親族や近所の人、友人、知人とのつながりの中で、皆様にとってプラスになったこと（効用）」を当日までに考えてきてもらい、座談会の最初に発表してもらった。このとき、単に他の参加者の話を聞くだけでなく、類似・関連する経験がある際にはそれを発表してもらった。発表された内容は、書記がホワイトボードに書き出し、参加者で共有した（写真2）。

次に、八千代市の座談会では間に合わなかったが、市原市と館山市での座談会では、未来シミュレータの結果の一部を示し、2040年の地域の状況を説明した。そのうえで、「2040年に残したい、復活させたい、あるいは新たに築きたいつながり」を書き出されたホワイトボードを見ながら、参加者に話し合ってもらった。これは、フォアキャストによる社会関係資本の将来推計が困難であることから、2040年に必要だと考えるつながりを将来の目標に設定し、そこから振り返ってマネジメントを行うバックキャストアプローチを採用するためである。ただし、2040年という未来の話は、参加者がイメージしづらいこともあった。そこで、館山市の座談会では、当日までに2040年の自分や家族の状況を考えてきてもらうことで、2040年を自分事としてイメージしてもらうこととした。

3市の座談会で得られた知見をまとめると以下のようなになる。

まず、従来研究のリソースリストにもある「地域のお店や病院などの情報を教えてくれる」「自分や家族の仕事を紹介してくれる」「病気のときなどに代わりに家事をお願いできる」「病院や駅などに送迎してくれる」などの情報・知識提供、人・仕事の紹介、困ったときなどの支援など手段的（instrumental）な効用は、3市の座談会でも出された。

その一方で、従来研究のリソースリストではあまり取り上げられていなかった

た「悩みや愚痴を聞いてもらい、気が楽になる」「ありのままの自分を受け入れてくれる」「やる気や刺激を与えてくれる」などの安心・自己肯定・励みなどの表出的 (expressive) な効用も多く出された。手段的効用については、インターネット (情報検索、商品購入など) や様々なサービス (家事代行、タクシーなど) を利用することである程度の代替が可能である一方で、表出的効用については、知人や友人というネットワーク以外からの獲得が難しいためと考える。つまり、現在から将来の日本においては、社会関係資本としてそうした表出的な効用を検討する必要があるということである。

また、家族、近所の人、友人のような深いつながりからの効用はもちろんのこと、「近所の子どもから挨拶されて元気が出た」「犬の散歩でよく会う人からよい動物病院を紹介された」など、あまり深い付き合いではない (面識はあるが、名前は知らない) 人からの効用も多く出された。こうした「弱い紐帯 (weak ties)」からの効用も無視することはできない。

さらに、八千代市、市原市、館山市というそれぞれの地域特性が反映される結果となった。特に館山市においては、「葬式を地域の人に手伝ってもらおう」「地域の風習 (しきたり、屋号、伝統料理など) を教えてくれる」「採れ過ぎた野菜や魚をもらってもらおう」といった効用が出された。最後の例は、いわゆる「おすそわけ」であるが、他の2市が「貰う側」の効用であった一方で、館山市では「する側」の効用も出されたことは興味深い。

最後に、これは当初の座談会の目的とは異なるが、世代・性別の異なる者で構成されるグループで座談会を行った結果、異なる経験・価値観に触れたり、情報を得たりすることが、お互いの刺激となり、座談会後の参加者アンケートでの満足度は高いものとなった。つまり、異なる世代・性別による座談会 (のような場の構築) 自体が、新たな社会関係資本の蓄積につながる (ブリッジングの関係構築) ことが期待される。

#### リソースジェネレータによる社会関係資本の測定と分析

つながり座談会を踏まえて、各市でリソースジェネレータ調査用のリソース

リストを作成した（表1、表2）。作成したリソースリストを用いて、2016年1月に八千代市、2017年2月に館山市でリソースジェネレータ調査を実施した。なお、市原市では2014年2月に実施しており、その結果は栗島ほか（2015）で報告済みである。また、八千代市、市原市の調査では、リソースの獲得先を居住場所ごとに尋ねたが、館山市の調査では獲得先の居住場所に加えて、自分と同世代か否かも尋ねた。以下では、分析中の八千代市の結果について、報告する。

調査は、2016年1月21日～2月1日にかけて、層化無作為抽出した八千代市在住の20歳以上男女3,003人を対象に実施し、907人から回答を得た（回収率30.2%）。

各リソースの獲得率は概ね高く、獲得率が70%を下回ったのは、表1のサ・チ・ツ・テ・ト・ナ・ハ・ヒ・フであった。またその獲得先は、リソースの種類によって異なっているため、獲得先パターンに基づいて、Ward法クラスター分析を行った。その結果、各リソースは5つに分類できることが明らかとなった。類型1は、主な獲得先が同居者と市外であり、表1のツ・テ・ナ・ヌ・ノがこれに該当することから、家族・親族から得ることが多いリソースと解釈した。類型2は、主な獲得先が同居者と近所であり、エ・カ・ク・ケ・セがこれに該当することから、地理的に近い人からのリソースと解釈した。類型3は、主な獲得先が近所と地域内、市内であり、サ・タ・ネがこれに該当するため、地域でのつきあいから得られるリソースと解釈した。類型4は、主な獲得先が市外であり、ウ・コ・ソ・チ・ト・ハ・ヒ・フがこれに該当するため、友人から得ることが多いリソースと解釈した。類型5は、獲得先に特に傾向がなく、ア・イ・オ・キ・シ・ス・ニ・ヘ・ホがこれに該当することから、様々なつながりから得られるリソースと考えた。

獲得率について性別・年代別に分析を行ったところ、女性は男性よりも各リソースの獲得率が高く、リソースの平均獲得数も、男性平均が20.9、女性平均が24.1と大きな差が出た（表3）。中村（2004）などにおいても、郊外地域では子育てなどを通じて男性よりも女性の方が地域内の社会関係が豊富であるこ

とが指摘されており、そうした傾向が反映されたものと考えられる。ただし、八千代市の調査では女性よりも男性の方が知人の平均数は多かった。これは、男性は職場を介しての知人は多いが、そうした知人からは支援を受けづらいのが原因と考えられる。また、70歳以上で他の年代に比べて有意に獲得率が低下することが確認され、特に男性70歳以上の平均獲得数が19.1と著しく低くなった(表3)。子どもの独立や配偶者との死別などによって同居者からのサポートが減少するとともに、退職や自身の健康等の理由から地域外との関係も少なくなっていることが原因と考えられる。ただし、先述の類型2と3のリソースの獲得率はそれほど低いことから、近所や地域の人々とのつながりが維持されていれば、その部分のリソースにはアクセスできることも推察できる。

市内を7地区に分け、地区ごとに分析を行ったところ、地区差は性別・年代別の差に比べてそれほど大きくなかった。八千代市はそれほど市域が広くなく、かつ郊外のベッドタウンとして比較的均質な性格であることがその理由と考えられる。しかし、性・年代の影響を排除してもなお他の地区に比べて各リソースの獲得率が低く、平均獲得数も20.4と少ない地区(以下、A地区)が存在した。A地区でこのような結果が出た原因について検討を行った結果、以下のような理由が考えられた。まず、A地区の回答者の居住形態を確認したところ、回答者の43.8%が賃貸の集合住宅に住んでおり、この割合は他の地区に比べて著しく多かった。A地区には、UR賃貸の住宅団地があり、回答者の大半はその居住者と考えられる。そこで、A地区の回答者について居住形態別にリソースの平均獲得数を見たところ、戸建ての持ち家に住む回答者が22.0であるのに対して、賃貸の集合住宅に住む回答者の平均は18.6と低くなった。一般的に賃貸の集合住宅では、地域とのつながりが希薄とされており、それが影響している可能性がある。さらに、賃貸の集合住宅に住む回答者は、同居者が他の居住形態に比べて少なかったため、八千代市全体で世帯人数別にリソースの平均獲得数を見たところ、単身世帯の平均が17.4となり、2人世帯の23.4、3人以上世帯の24.0を大きく下回った。このことから、賃貸の集合住宅に住む人は単身世帯が多く、単身世帯はリソースへのアクセスが困難であることが示唆された。

世帯人数という要因は、先述の70歳以上でリソースの獲得率・獲得数が低いことにもつながっていると考えられる。

以上の結果は、リソースリストとして設定した2040年の目標に対する社会関係資本の現状であり、八千代市における社会関係資本のマネジメントにおいては、「男性」「高齢者」「団地」「単身世帯」が重要なキーワードとなることが明らかとなった。この結果は、未来ワークショップやステークホルダー会議において共有される。

### つながり活性化に向けたワークショップ

バックキャストイングによるマネジメントは、理想の未来と現状とのギャップをどのように補完していくか、どのように弱みをなくしていくか、という作業になる。リソースジェネレータ調査によって明らかとなったギャップと弱みを踏まえ、様々な効用を生み出す社会的ネットワーク（つながり）の活性化方策について、ワークショップ形式で検討する。ワークショップは、中高生による「未来ワークショップ」とステークホルダー会議の2回を想定している。八千代市においては、やちよ未来ワークショップを2016年11月23日に開催し、ステークホルダー会議を2017年6月頃に開催予定である。そのため、以下では、やちよ未来ワークショップの結果を報告する。

未来ワークショップは、「未来シミュレータ」の結果をもとに、地域の様々な課題について議論する。やちよ未来ワークショップでも、「未来シミュレータ」の結果として、社会関係資本に関して「男性の『つながり』の数が女性より少なく、70歳以上は『つながり』の数が他の世代を大きく下回っている」こと、「2040年は、70歳以上の人口が増えるため、1人あたりの『つながり』が減る可能性がある」こと、「戸建住宅に住む人に比べて、集合住宅に住む人の『つながり』の数が少ない」ことを説明した。

その結果、中高生からは「団地での住民参加のイベントの開催する」「団地の入居条件を設定して、幅広い年齢層を入居させる」「ママ友だけでなくパパ友も集まれるようにする」「高齢者や大人の出会いの場をつくる（高齢者の合コンな

ど)」「高齢者同士でシェアハウスをする」「高齢者が子どもの面倒を見てくれるような施設を作る」などのアイデアが出された。これらの一部はすでに他の自治体で行われているものもあるが、どのように実現可能なものにしていくかが重要である。また今後は、こうした中高生の意見も含めて、ステークホルダー会議において、より具体的な「男性」「高齢者」「団地」「単身世帯」の社会的ネットワークの活性化方策を検討する予定である。

### おわりに

本報告では、社会関係資本のマネジメント手法の開発とその試行について述べてきた。

まず、本研究プロジェクトでは、社会関係資本を「社会における人々の持つ人間関係（ネットワーク）と、そこから得られる直接的・波及的な効用」と定義した上で、住民によるつながり座談会で将来の目標をリソースリストとして設定し、リソースジェネレータ調査で理想とのギャップや弱みを明確にし、これを踏まえて住民によるワークショップによってネットワークを活性化する方策を検討するというマネジメント手法を提案した。

次に、この手法を八千代市、市原市、館山市で試行した。その結果、つながり座談会では、従来から指摘される手段的な効用に加えて、表出的な効用も社会関係資本としては重要であること、弱い紐帯のもたらす効用も重要であること、ネットワークのもたらす具体的な効用には地域による違いがあり、地域ごとにリソースリストを検討することが重要であることが明らかになった。リソースジェネレータ調査では、性別、年代、居住地域、居住形態、世帯人数がリソースの獲得に影響を与えることが明らかになった。未来ワークショップでは、数多くのアイデアが出され、今後はステークホルダー会議でも社会関係資本の活性化に関する具体的な方策を検討する予定である。



表1 八千代市のリソースリスト

ア	おいしいお店（レストラン等）を教えてもらう
イ	パソコンや携帯電話（スマートフォンなど）のトラブルが起こった時に頼りになる
ウ	趣味に関する情報を交換する
エ	病気の時などに自分の代わりにちょっとした買い物が頼める
オ	自分で運転できない時（免許がない場合）に、自動車で目的地まで乗せていてもらえる
カ	お互いの家族構成を把握している
キ	お互いに近況を確かめ合う
ク	災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している
ケ	旅行・帰省等で家を長期に留守にする際に、水やりなどちょっとしたことをお願いできる
コ	災害時に必要な物資を送ってくれる
サ	一緒に地域の活動（お祭りやボランティアなど）をする
シ	一緒に趣味を楽しんだり、体を動かしたりする
ス	自分や家族を日常的に気にかけてくれる（見守ってくれている）
セ	地域の自然や環境、歴史について一緒に話をする
ソ	自分とは異なる価値観や経験を持った知り合い
タ	おすそわけをしあう
チ	使わなくなったもの（子どもの服や電化製品など）を譲ってくれる
ツ	困った時に少額のお金を貸してくれる
テ	保証人になることを頼める
ト	自分や家族の就職先（パート、アルバイトを含む）を紹介してくれる
ナ	一緒に食事や飲みに行く
ニ	悩みや愚痴を聞いてもらえる（気持ちが楽になる）
ヌ	自分に対応できない時に（一時的に）家族の世話（介護、子どもの世話、家事など）を頼める
ネ	評判の良い病院、介護施設、保育所、支援組織・制度、（学校・塾）などの情報を教えてくれる
ノ	自分が病気や障害を抱えた時に物理的なサポート（介護等）を頼める
ハ	英語の通訳や翻訳をしてもらう
ヒ	お金に関するアドバイス（保険や投資、借金など）をしてくれる
フ	自分の良い所も悪い所も尊重してくれる（受け容れてくれる）
ヘ	気軽に何でも聞ける物知りな知り合い
ホ	お互いを高め合う知り合い

表2 館山市のリソースリスト

ア	あなたが病気や障害を抱えた時に介護、看病などをお願いできる
イ	あなたが対応できない時、一時的に家事や家族の世話（介護、育児など）をお願いできる
ウ	お葬式の手伝いをお願いできる
エ	あなたが病気の時など動けない時に、代わりにちょっとした用事（買い物など）をお願いできる
オ	保証人になることをお願いできる
カ	あなたが運転できない時に、目的地までの送迎をお願いできる
キ	困った時に少額のお金を貸してくれる
ク	趣味に関する情報を教えてくれる
ケ	地域の生活に役立つ情報（美味しいお店や安売りの情報、ごみの分別など）を教えてくれる
コ	あなたや家族の就職先（パート、アルバイトを含む）を紹介してくれる
サ	お金に関する情報（保険や投資、税金、ローンなど）をアドバイスしてくれる
シ	評判の良い病院、介護施設、保育所、学校・塾などの情報を教えてくれる
ス	パソコンや携帯電話（スマートフォンなど）のトラブルが起こった時に相談できる
セ	地域の自然や歴史、風習（行事、伝統料理など）について一緒に話をしてくれる
ソ	一緒に地域の活動（お祭りやボランティアなど）をしてくれる
タ	一緒に食事をしたり、お酒を飲みに行く
チ	一緒に趣味を楽しんだり、体を動かしたりする
ツ	悩みや愚痴を聞いてくれて、気持ちが悪くなる
テ	お土産や野菜、魚などをおすそわけしてくれる
ト	使わなくなったもの（子どもの服や電化製品など）をあなたや家族に譲ってくれる
ナ	火事や事故、災害時に必要な物資を送ってくれる
ニ	災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している
ヌ	あなたの家族構成を把握している
ネ	日常的にあなたや家族を気にかけてくれる（見守ってくれている）
ノ	あなたが特にお願いしなくても、自発的にいろいろと手伝ってくれたり、助けてくれる
ハ	留守中、雨が降った時に洗濯物を取り込んでおいてくれる
ヒ	家事や家族の世話（育児や介護など）を分担してくれる
フ	あなたの良い所も悪い所も尊重してくれる（受け容れてくれる）
ヘ	あなたにやる気や刺激を与えてくれる
ホ	あなたの知らない人とつなげてくれる

表3 性別・年代別の獲得率 (八千代市)

	男性						女性					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア	90.0	84.1	93.7	84.4	88.1	78.8	95.3	98.8	95.5	95.2	94.4	89.1
イ	85.0	77.3	92.4	77.8	81.0	66.3	96.9	96.3	93.2	91.7	91.1	72.8
ウ	95.0	86.4	84.8	73.3	81.0	75.0	95.3	97.5	89.8	92.9	87.8	78.3
エ	87.5	90.9	89.9	84.4	85.7	76.9	89.1	95.1	95.5	95.2	91.1	90.2
オ	87.5	90.9	92.4	88.9	88.1	80.8	96.9	96.3	96.6	97.6	94.4	92.4
カ	85.0	86.4	89.9	75.6	82.1	67.3	95.3	92.6	92.0	94.0	91.1	85.9
キ	90.0	90.9	94.9	91.1	84.5	77.9	100.0	96.3	95.5	97.6	94.4	87.0
ク	67.5	88.6	81.0	71.1	82.1	72.1	84.4	85.2	85.2	86.9	83.3	81.5
ケ	65.0	61.4	63.3	62.2	70.2	71.2	70.3	76.5	79.5	83.3	83.3	72.8
コ	75.0	81.8	84.8	84.4	77.4	74.0	84.4	88.9	93.2	92.9	87.8	77.2
サ	42.5	45.5	54.4	42.2	53.6	56.7	59.4	58.0	64.8	63.1	54.4	57.6
シ	85.0	75.0	75.9	68.9	70.2	71.2	92.2	86.4	79.5	83.3	82.2	77.2
ス	62.5	86.4	83.5	86.7	85.7	84.6	92.2	93.8	96.6	94.0	95.6	93.5
セ	47.5	65.9	59.5	68.9	70.2	72.1	59.4	67.9	76.1	78.6	80.0	71.7
ソ	77.5	81.8	82.3	71.1	65.5	62.5	89.1	87.7	90.9	88.1	83.3	71.7
タ	60.0	79.5	82.3	73.3	73.8	79.8	79.7	96.3	93.2	95.2	93.3	89.1
チ	55.0	61.4	62.0	35.6	42.9	38.5	57.8	82.7	76.1	66.7	46.7	40.2
ツ	72.5	63.6	65.8	60.0	57.1	38.5	82.8	76.5	71.6	70.2	65.6	51.1
テ	60.0	63.6	69.6	62.2	60.7	47.1	70.3	76.5	69.3	77.4	67.8	65.2
ト	50.0	29.5	43.0	44.4	33.3	31.7	57.8	50.6	46.6	59.5	34.4	23.9
ナ	57.5	47.7	58.2	44.4	41.7	28.8	75.0	67.9	58.0	64.3	52.2	35.9
ニ	90.0	81.8	93.7	86.7	77.4	75.0	96.9	98.8	97.7	95.2	96.7	83.7
ヌ	52.5	70.5	73.4	71.1	73.8	73.1	67.2	88.9	86.4	89.3	80.0	72.8
ネ	67.5	70.5	82.3	77.8	75.0	73.1	73.4	88.9	92.0	90.5	86.7	76.1
ノ	75.0	77.3	78.5	73.3	72.6	68.3	79.7	86.4	86.4	88.1	82.2	79.3
ハ	32.5	36.4	32.9	37.8	27.4	23.1	48.4	45.7	42.0	42.9	32.2	34.8
ヒ	67.5	65.9	67.1	66.7	42.9	46.2	87.5	81.5	77.3	82.1	68.9	59.8
フ	62.5	61.4	63.3	51.1	53.6	48.1	82.8	77.8	75.0	71.4	61.1	50.0
ヘ	92.5	88.6	94.9	82.2	85.7	76.9	100.0	98.8	96.6	97.6	92.2	85.9
ホ	82.5	86.4	88.6	82.2	75.0	75.0	96.9	96.3	96.6	96.4	92.2	83.7

カイ二乗決定の結果：斜体：1%水準で有意に少ない (下線は5%水準)

太字：1%水準で有意に多い (下線は5%水準)

(参考文献)

- 栗島英明, 佐藤 峻, 倉阪秀史, 松橋啓介 (2015) 「Resource generator による地域住民のソーシャル・キャピタルの測定と地域評価との関連分析—千葉県市原市を事例に—」『土木学会論文集 G (環境)』71(6): II\_91-II\_98
- Lin, N. (2001) *Social Capital: A Theory of Social Structure and Action*, Cambridge University Press
- Portes, A (1998) Social capital: Its origins and applications in modern sociology, *Annual Review of Sociology*, 24: 1-24
- Putnam, R. D. (1993) *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press
- Van del Gaag, M. and Snijders, T. A. B. (2005) The Resource Generator: social capital, *Social Networks*, 27: 27-44
- 中村昭史 (2004) 「社会的ネットワークからみた大都市近郊住民の近隣における社会関係—埼玉県鷲宮町旭町地区を事例として—」『地理学評論』77: 695-715

(くりしま ひであき、なかむら あきふみ)